ボランティアプログラム

「事前学習Ⅰ」報告

2018/06/17

ボランティアプログラム共通「事前学習Ⅰ」

6月17日（日）、南大沢キャンパス本部棟大会議室にて、首都大ボランティアプログラムの最初の取組となる「事前学習Ⅰ」を実施しました。 ボランティアプログラムは、学習と連動した活動を年間を通じて行うもので、「スポーツ」と「地域」の2種類があります。また、地域ボランティアプログラムには、「松木日向緑地プログラム」と「みなみおおさまカフェプログラム」の２つがあり、全体で3つのプログラムの学生合計●人が合同で学び合いました。講師は、ボランティアセンターのアドバイザーでもある、人文社会学部人間社会学科 社会福祉学教室の室田信一先生にご担当いただきました。

・アイスブレイク

決められたグループに分かれて着席した学生たちは、初めは緊張した様子でした。そこで、その緊張をほぐすために、3年目のリーダー学生が、「みんなでじゃんけん」というアイスブレイクを準備し、進行してくれました。グループごとに何を出すかを決めてじゃんけんし、負けたグループは勝ったグループの後ろにつながっていくというものです。このゲームを通じて、グループごとの連帯感が高まり、和やかな雰囲気に変わっていきました。

・事前学習の内容

ボランティア活動のキー概念である「自発性」「社会性／公共性」「無償性」をポイントに、グループワークを中心にして研修が進められました。グループのファシリテーターは、3年目のリーダーや2年目のサポーター学生が担当しました。

前半は、室田先生ご自身の実体験も踏まえてお話しいただき、各自のこの活動に参加しようと思った動機について話し合い、共通点や異なる点を共有し、深めていきました。

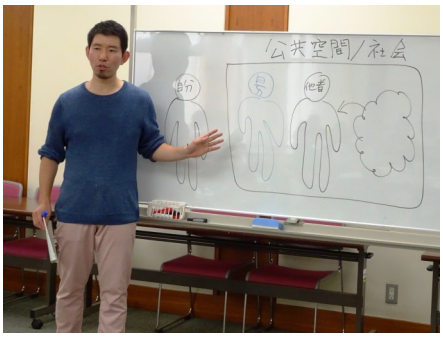
後半は、プログラムごとのグループに分かれ、2年目のサポーター学生から昨年の活動について紹介していただき、グループごとにプログラムの「社会性／公共性」について考えました。その後、ワールドカフェ方式で、他のグループを回って説明を聞き、他のグループの模造紙にコメントを書き込み、共有を行いました。

最後には、今後の活動に向けて、一人ひとりが「首都東京をどのような街にしたいか」「その中に自分をどのように位置づけたいか」を宣言しました。

・参加した学生の声

- ボランティアに関する考え方が深まった
- 動機から目標を順序立てて考えることができて良かった
- 他の人の意見を聞いて、自分の考えと照らし合わせて考えたり、質問をもらって考えることで、新しい発見ができ、自分の考えを深められた
- とりあえずボランティアをしたいという気持ちから、「誰に、何のために、どうやって」を少し考えられるようになった
- 受講前は自分の成長が動機として強かったが、これをきっかけに社会貢献や社会問題解決など幅が広がり、やる気が上がった

社会の中に身を置く行為であるボランティア活動。個々の動機とプログラムの社会性・公共性を関連づけて考えることで、自分と社会との接点について考えることができたようです。今後は、プログラムごとに「事前学習Ⅱ」を行い、実際の活動に入っていきます。



講師をしていただいた室田先生

リーダーによるアイスブレイクで
緊張を解きほぐす

ボランティア宣言